

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170503585		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの杜		
所在地	札幌市白石区北郷2条1丁目7-3 (電話) 011-873-8880		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年 7月11日	評価確定日	平成20年8月8日

【情報提供票より】 (20年6月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人 非常勤 1人 常勤換算 10.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	2～3	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
			11～3月	12,000円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

### (4) 利用者の概要 (7月11日現在)

	18名	男性	9名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	10名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.7歳	最低	62歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大屋医院. サンプラザ札幌病院. さくら医科歯科クリニック. 白石脳神経外科病院
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家族会及び運営推進会議が2ヵ月ごとに開催され、その内容がホーム運営とサービスの向上に多くの貢献と反映をしている。また、運営推進会議のメンバーが広範囲、かつ地域で活躍されている方々で構成され、ホームが掲げる地域密着型への大きな影響をあたえていることなどが特筆されます。一方、ホーム長始めスタッフは、色々なアイデアを持ち寄り、良いと思ったことは、ただちに実現に向けたアクションを起こすなど、常に前向きな姿勢が見られます。これにはオーナーとの強い絆による信頼関係があることも見逃せません。このような背景があつて、利用者の自分らしく、ゆったりとした暮らしが継続されています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の取り組み事項では、地域に密着した理念作りがあり、スタッフ総意のもとに理念が作られ、各自がどのように対応すべきかを日々省みるなどしています。また、目標の設定や運営推進会議への公表など、積極性が見られます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>二つのユニット毎に、各自が日頃のサービス内容を検証して作り上げています。課題の中では継続して取り組まなければならないものもあり、改善計画シートの活用により、目標の設定を行ないつつ積極的な取り組みを期待します。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーが、広く地域を支える人たちで構成されており、会議の内容も、ホームのサービスの向上をメインとして活発に協議がされています。特に町内会と商店街の深い理解と支援がみられます。これからも自己評価及び外部評価を公表しつつ、取り組みへのモニター役となつていただき、サービスの質の向上に役立てるよう取り組みに期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会が2ヵ月に1度開催され、家族の抱く意見、要望、また、苦情などが話されており、サービスの向上に役立てています。家族会に出席される家族は5～6人と多くはありませんが、会議の内容を細やかに記録して、出席できない家族の方へ郵送するなど、ホームと家族の絆を大切にしています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の行事にはお誘いを受けて参加しています。なかでも商店街も加わる「防災運動会」は恒例の行事となっています。また、近くの小学校の運動会などにも招かれるなど、利用者にとって、外の空気に触れながらの楽しみのひとつとなっています。運営法人では年に1度、関連事業所合同で「いずみ祭り」を開催していますが、地域の方々も大勢参加していただいています。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、運営法人の理念を基調としたホーム理念が、ホーム長とスタッフで検討し見直しが行なわれて、利用者が地域の中で、安心した暮らしが継続できることを支える独自の理念が作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフの合議で作られたホーム理念は、ホーム長を中心としたチームワークの中で、幾度となく反省を加えながら日々の取り組みが行なわれています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや文化祭、また、商店街なども加わる町内恒例行事の「防災運動会」へのお誘い、また、少学校の運動会にもお招きいただき、参加をしています。年に1度の運営法人が主催する「いずみ祭り」には、近くの住民の皆さんも沢山参加して下さるなど、ホーム並びに利用者が孤立することなく、地域の一員としてのお付き合いが盛んに行なわれています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価及び外部評価について、スタッフ自らがどのように対応すべきかの原点に立ちながら、改善に向けた果敢な取り組みが行なわれています。一部に継続している課題はあるものの、多くの取り組みが実を結んで、サービスの向上に役立てています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヵ月に1回の開催で、ホームの現況報告や行事の内容説明に加えて、評価への対応、防災に関する要請など広範囲な案件について活発な意見交換がされています。メンバーも町内会副会長を始め婦人部長、商店会副理事長、地域包括支援センター職員、利用者の家族の方々などが参加しています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の置かれている経済的な環境に関して、区の担当職員と密接に連携をとりながら、サービスの質の向上に向けた取り組みが行なわれています。成年後見制度の活用も指導を受けています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	予め家族の了解を得て、毎月発行される「いずみの杜通信」には、全ての利用者の暮らしの写真が掲載されて家族の好評を得ています。この通信の中には、担当のスタッフが利用者一人ひとりの様子や会話を書き込むコラム欄があり、家族との温かな関係作りに役立っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヵ月に1度の割合で開催される家族会では、運営に関する忌憚のない意見が交わされ、ホームの運営に反映されています。また、家族の訪問時にはできるだけ会話を多くしながら、直接家族が抱く意見の聴取に努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に各ユニットのスタッフは固定されていますが、利用者と同様にユニット間の行き来は日常的に行なわれ、結果的には沢山の馴染みができています。職員の退職などには、ホーム長を始めベテランスタッフがフォローする体制で対応しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月の全体会議の後に色々な報告を兼ねて行なわれています。おむつの専門業者を講師に迎えて使用方法を教わるなど、個々のスキルアップに役立てています。また、外部研修の受講は、スタッフのレベルアップと資格取得の挑戦に資するよう支援をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内で作られたグループホームの管理者連絡会では、地域のほかの業者と当面する諸問題の解決と情報交換が行なわれていますが、相互訪問など踏み込んだ交流には至っていません。	○	地域のほかの業者との、相互訪問や合同研修会の開催など、活動を通してサービスの質の向上を図ることが望まれ、スタッフ全体が参加できるネットワーク作りへの取り組みを期待します。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用が決まる前には、利用者とその家族がホームに来て、馴染んでいただくこと、また、ホーム長はこれまでの住居や病院へ出向いて、暮らしぶりを知ることなどに努め、少しずつホームの暮らしに馴染めるよう配慮しています。馴染むまで家族が宿泊する部屋の用意もして支援しています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに調理やおやつ作りをするなど、スタッフは、ともに過ごす暮らしを第一に考えて支援をしています。人生経験の豊かな利用者から教わることも多く、お互いが支えあうホーム生活が続けられています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、特に目などの表情変化で利用者の意向や思いを把握するようにしています。また、生活歴など家族からの情報も日々のサービスに活かされることが多く、スタッフは日々研鑽に努めています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の介護記録やバイタルチェックは綿密な記載により、利用者の状況が良く掌握されています。月に1度のカンファレンスでは、家族の意見も反映された介護計画が作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヵ月毎の見直しとしていますが、利用者の状況、退院時には医療機関と連携をとりながら、適時現状に合った見直しが行なわれています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院以外の通院は原則、家族にお願いしていますが、家族の状況によってはホームとして送迎、付き添いも行なわれています。また、遠方の家族の方々のための宿泊や、特別な買物など多機能性を活かした柔軟な対応がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者によって、以前からのかかりつけ医は僅かながらあるものの、大半はホームの協力医が実質かかりつけ医となって、月1回の定期往診のほか、日常的な相談に応じていただいています。また、専門的な診察や治療が必要な場合も、専門医を紹介していただいています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の相談及び契約の際には、ホームではターミナルケアが行われていない旨の説明をしています。また、重度化に際しては、家族や医師を交えて対応を話し合っていますが、一部に限られ全体への説明や終末期における指針などは作られていません。	○	ターミナルケアへの対応は現在されていませんが、利用者及び家族が安心してサービスを受けることができるよう、また、急変時への対応など話し合いの機会を作りながら、指針の統一を図られるよう取り組みに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全体会議を通して、利用者のプライバシー確保への話し合いが持たれています。また、会報などの個人的な部分や病院への情報提供などは予め利用者及び家族の同意書を得て進められています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きることが困難な利用者にはゆっくりとしたペースに委ね、食事の時間も利用者のペースで支援されています。スタッフは利用者の「のんびり、ゆったり暮らし」を優先して支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は事前に決めることなく、スタッフにより毎日、楽しめる献立が作られています。利用者のリクエストも聞きながら、利用者にもお手伝いをさせていただきながら、食事作りがされています。また、スタッフと一緒にの食事や後片付けなど会話が弾んでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則、利用者の希望により毎日の入浴も可能としています。入浴を拒む場合には足浴や清拭、また、銭湯での入浴を取り入れるなど、楽しみとしての入浴を支援していますが、懸案の夜間入浴は幾度となく検討はされていますが、実現には、まだ至っていません。	○	夜間入浴はスタッフのシフトの問題など検討すべき要因が多々ありますが、利用者本位の暮らしをしていただくため、これからも実現に向けた検討、取り組みを期待します。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのできること、できないことなどを把握しながら、自力での役割りによる自信、プライドの高揚を支援しています。ホーム内では新聞とり、金魚の世話、配膳や茶碗拭き、洗濯物たたみ、また、買物や外食などの楽しみを取り入れながら、張りのある暮らしへの支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	企画された行事以外でも、利用者の希望により散髪や買物など一緒に出かけながら、少しでも多くの外の空気に触れるよう支援しています。また、希望者を募りドライブやハイキング、いちご狩り、温泉へも出掛けています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠がされていますが、それ以外は開放しています。外出の傾向がある利用者には、止めるのではなくスタッフも一緒に散歩などを行っています。ユニットの入口には可愛い小さな鈴が付いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防コンサルタントの企画により災害時の避難訓練を行なっています。また、運営推進会議でも地域住民の方々の協力要請が行なわれていますが、具体的な内容のマニュアルや夜間を想定した訓練には至っていません。	○	災害時の対応では、近隣の住民の方々の協力は不可欠であり、どの部分での対応と協力が必要とするかなど、細部にわたるマニュアル作りが必要と思われます。また、人手の少ない夜間を想定した避難訓練など、これまでの避難訓練に加えて実現されるよう取り組みを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じた水分摂取や食事量がチェック表で管理されています。毎月定期的に献立表から、カロリー計算と栄養バランスの状況把握が行なわれています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	厨房がリビングの中央にあり、スタッフが作業をしながら、利用者との会話が容易にできます。機能的な共用空間の配置となっています。数箇所に設けられたベンチには畳が置かれ、和風の趣きで、おだやかな雰囲気が生まれています。不快な音や臭いもなく居心地の良い共用空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベットなどはすべて、持ち込みによって居室が作られています。カーテン、じゅうたん、仏壇、テレビ、パソコンなど利用者の好みのものが持ち込まれて、居心地の良い暮らしの場となっています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。